



WPCDドーハ大会報告会

報告分野: 持続性
(フォーラム・ラウンドテーブル)

2012年2月8日

一般財団法人 石油エネルギー技術センター
調査情報部 辻村良成



報告分野: 持続性

①「F20: 気候変動への産業界の対応」

議長 Mr. Wishart Robson (Nexen Inc., Canada)
副議長 Ms. Manoelle Lepoutre (TOTAL, France)
Mr. Franz Sorensen (Maersk Oil, Denmark)
講演者 Mr. Jan Dell (CH2M Hill, USA) 他5名

②「RT14: 気候変動の地政学と規制」

議長 Ms. Sherri Stuewer (Exxon Mobil Corporation, USA)
パネラー Ms. Beatriz Nassur Espinosa (Petrobras, Brazil)
Mr. David Byers (Airservices Australia, Australia)
田中伸男氏 (日本エネルギー経済研究所、日本)





1. 「F20: 気候変動への産業界の対応」

- ・石油・ガスに関わる産業は自らが気候変動問題の一翼を担うことを認識
- ・石油・ガスに関わる産業は問題解決策を見つけ作り出す主役の産業



気候変動を最小限に抑え込もうとする石油・ガスに関わる産業の対応について: 6講演
(補完的エネルギー開発、省エネルギー、CCS等)



ア. 石油産業: 気候変動から想定される影響への適応

- ①講演者 Mr. Jan Dell (CH2M Hill, USA)
- ②内容 気候変動の地域毎の影響評価と対応例

イ. 包括的エネルギー管理システム

- ①講演者 Mr. Brian Eidt (ExxonMobil, Refining & Supply Company, USA)
- ②内容 EMのGEMS (Global Energy Management System) によるエネルギー効率改善の取組み

ウ. 気候変動への対応: 石油・ガス会社の視点

- ①講演者 Mr. Dominique Copin (TOTAL, France)
- ②内容 TOTALの気候変動への4つ戦略的な取組み



エ. 気候変動に対する戦略構築: 中東第一のLNG生産者の見方

- ①講演者 Mr.Laurent Fragu(Ras Gas Company, Qatar)
②内容 カタル及びRasGasの気候変動への取組み

オ. 世界的な随伴ガス燃焼排出物削減の取組み

- ①講演者 Mr.Bent Svensson(World Bank,USA)
②内容 世界銀行主導での取組み: $\Delta 22\%$ @2010

カ. CCS(Carbon Capture and Storage)は重質油開発の解決になるか

- ①講演者 Mr.Trude Sundset(Statoil, Norway)
②内容 CCSの効果とカナダオイルサンドへの適用性検討

上流から下流まで一貫した戦略的な取組みが重要



2. 「RT14: 気候変動の地政学と規制」

気候変動に対する政策の企業への影響と、
企業の取組みの可能性

ア. ブラジルの規制とPetrobrasのイニシアティブ

- ①講演者 Ms.Beatriz Nassur Espinosa (HSE
General Manager, Petrobras,Brazil)
②内容
・クリーンエネルギー比率: 46%(世界平均13%)
・GHGに占めるエネルギー部門の比率: 16.5%
・GHG36~39%削減@2020
・Petrobrasの気候変動対応(カーボン戦略)
エネルギー効率向上、フレアガス低減、
バイオ燃料拡大・技術開発、CCSなど
バイオに41億US\$投資(@2011~2015)





イ. オーストラリアの気候変動対応

- ①講演者 Mr.David Byers (General Manager Corporate & International Affairs, Airservices Australia, Australia)
- ②内容 2012年1月:炭素税導入。3年間は固定。
2015年からはETS(排出権取引スキーム)へ

ウ. IEA「2011年世界エネルギー展望 (World Energy Outlook 2011: WEO2011)」と気候変動対応

- ①講演者 田中伸男氏 (特別顧問 日本エネルギー経済研究所、日本)



- ②内容
 - ・2011年11月 IEA(国際エネルギー機関)が「WEO2011」を発表
 - ・WEO2011は、3つのグローバルなシナリオと多数のケーススタディーで構成
 - ・現行政策シナリオ
 - ・450ppmシナリオ:産業革命以降の世界平均気温の長期的な上昇を2℃以内に抑える
 - ・新政策シナリオ
 - ・450ppmシナリオは閉ざされようとしている
エネルギー効率の大幅改善とゼロカーボン投資の必要(例:20~30基/年の原子力発電所)
 - ・天然ガスの拡大(ゴールデンガスエイジシナリオ)ですらCO2削減効果は低い
- ⇒2050年にGHG半減は困難な現実



・気候変動の2大コンセプト

・ミチゲーション(Mitigation: 軽減)

⇒実現困難へ

・アダプテーション(Adaptation: 適応)

⇒認める必要あり

・CO2削減の効果的方法

⇒全てをエネルギーセキュリティで議論

トップダウンからボトムアップアプローチへ

エ. 質疑応答

①COP17で新たな段階への進展が無い場合、ETSや
カーボンスレジット市場はどうなるのか？

⇒・継続には国際的な合意が必要

・エネルギーセキュリティへのボトムアップアプローチが必要



②ボトムアップアプローチで不確実な政策に対し技術投資等の
インセンティブが得られるか？

⇒共通のペナルティや義務化が必要

オ. 議長まとめ

・気候変動への取り組みは容易ではない

・国際的な解決と企業の障壁への理解が必要

・次回のWPCでも同様のセッションでの議論を期待



現実を直視した気候変動対応への転換



WPCドーハ大会報告会

報告分野: 持続性

2012年2月8日
JX日鉱日石開発株式会社
事業2部
那須 俊彦



報告分野: 持続性

- ①変化する国営石油会社の役割(RT13)
(Moderator: Milton Costa Filho, Petrobras, Mexico
Panelists: Armando Guedes Coelho, IBP, Brazil
Javier Gutierrez, Ecopetrol, Colombia
Jim D. McFarland, Valeura Energy Inc., Canada
Jeff Miller, Halliburton, UAE)





①変化する国営石油会社の役割

➤ 国営石油会社の台頭

【従来】

NOC (National Oil Company: 国営石油会社) – IOC
(International Oil Company: 国際石油会社) の関係の中、
IOC が技術開発をリード

【近年】

NOC (National Oil Company: 国営石油会社) が、INOC
(国際国営石油会社) として、技術開発力を伸ばす

➤ 半官半民の成功例 (コロンビア Ecopetrol)

✓ 国営石油会社としての良さを残しつつ、民の良さ (迅速な
決断プロセス等) を兼ね備えた

第20回世界石油会議ドーハ大会 総括

顧問(前副会長・前技術委員会委員長) 菊地英一

今回で第20回目になる世界石油会議が2011年12月4日から同月8日までの5日間、カタールのドーハで開催された。

今大会は、中東で初めて開催される世界石油会議とあって、カタールの力の入れようは相当なものであった。会場となったカタール・ナショナル・コンベンション・センター(QNCC)は完成したばかりで、正式行事としてはこの石油会議が初の使用となり、カタール教育・科学・社会開発財団に属し、収容人数1万人の巨大建造物で、完成に5年かかったそうだ。設計は日本の著名建築家である磯崎新氏と当地の新聞にも紹介されていた。Qatar Tribune には、会議に関する記事が連日掲載されていた。国を挙げての行事であることは、Qatar 航空が Doha 空港に到着する直前に世界石油会議参加を歓迎するテロップが機内で流されたし、街中いたる所で世界石油会議の看板が目についた。

会議の開会式では、カタール首長、The Emir His Highness Sheikh Hamad bin Khalifa al Thani(ハマド・ビン・ハリファ・アル・サーニー)がスピーチした。経済と社会の発展にとって、エネルギー、特に石油と天然ガス資源の重要性を強調した。その内容は全文が Qatar Tribune に掲載された。石油とガスの生産国に対して資源消費に慎重な対応を求めている。過剰生産が将来世代の石油とガスの権利を損なうことがないように、生産国に明確なビジョンと戦略を求め、現在の石油・ガスによる収入を再生可能エネルギー生産技術の開発に充てることにまで言及した。またエネルギー利用に関して世界中に顕在化している格差について、その解決については、恵まれない国々の持続可能性を高めることを先進国、エネルギー消費国と生産国が共同努力することにより達成可能であるとした。“Energy Solution for All”これが本会議のメインテーマで、石油・ガス資源に関する技術的課題のみならず、環境問題はもとより社会問題の解決をも標榜している。

参加者は95カ国、約5300名で、前回のマドリード大会での約4300名を上回った。日本からも海外からの参加者を含め約200名が参加し、大変盛況であった。会議における活動も、基調講演での議長、フォーラムでは2名の副議長が選ばれている。日本国内委員会が前回の大会以降活発に活動してきた結果と確信する。

日本からは21件(口頭発表17件、ポスター発表4件)の応募があった。国内委員会としては、応募した9セッションの議長・副議長に対して、論文選定に理解を得るため、応募論文の特徴的内容をメールにて説明する努力がなされた。また CPC 委員(山浦専務)として日本の担当であった F15、F17の議長・副議長あてに論文選定に関する基本的な考え方をコメントした(2011年4月)。しかし、セッションによっては議

長の認識に差があったようで、うまく機能したとは言えないケースもあったようだ。今後に向けた課題となりそうである。

最終的には、日本から、7件の口頭発表(うち3件が基調講演)、7件のポスター発表、それにパネラー1名が、全体で1800件ほどの申し込みの中から採択された。ポスター発表が今回は発表の場と時間枠が与えられ、聴講者も多数集まった。わが国からの発表者の一覧は別表に示すとおりである。会議全体では、論文の質は必ずしも高いレベルのものばかりではなかったが、地域バランスなどを考慮した結果であればやむを得ぬところもある。日本からの発表はいずれも技術的に高いレベルの内容であった。海外から称賛され、敬意を払われる内容の技術を海外に発信することは、わが国の資源外交にも大いに貢献できるものとする。

今回の会期中に開催された Council Meeting(評議会)では、波田野事務局長が次期 CPC 委員に選任された。会議の人事でも日本のプレゼンスは確実に高くなっている。会議において一次情報に接することも重要であるが、何よりも継続して世界石油会議に出かけていくことは、友に会い、新たな友を得るためにも必要なことである。

また今回は、日本国内委員会をはじめ、9社のブースが展示会場に出展し、数も面積も前回に比べて大幅に増加した。また、4社のスポンサーが会議の運営に協力した。これらも前回に比べて飛躍的な増加であった。

最後に、周到な準備をされ、現地では日本国内委員会のブースで訪問者に熱心に対応いただいた事務局のご努力に感謝申し上げます。

以 上

(日本からの発表者一覧:次ページをご参照下さい)

議長・副議長(3名)、スピーカー(6名)、ポスター発表者(7名)、パネリスト(1名) (日時順)

No	日時		セッション	議長等	氏名	タイトル
1	12月5日	11:15-12:15	BPK1	議長、スピーカー	関 誠夫	大型ガス・プロジェクトの管理から得た教訓
2	12月5日	11:15-12:15	BPK7	基調講演スピーカー	岡崎 肇	エネルギー源としての水素の可能性
3	12月5日	17:00-18:30	F13	フォーラムスピーカー	高橋 剛	ディーゼル排気及び車両へのセタン価及び組成の影響
4	12月6日	11:15-12:15	BPK8	基調講演スピーカー	尾山 宏次	自動車燃料源の比較分析
5	12月6日	15:15-16:45	F3	副議長	野沢 謹至	GTLの効率、安全性及び経済性の改善
6	12月6日	15:15-16:45	F14	フォーラムスピーカー	寺岡 勝美	統合運転による製油所及び石油化学コンプレックス強化方策
7	12月6日	17:00-18:30	F4	フォーラムスピーカー	野上 朋範	小規模から中規模ガス田の付加価値を上げる天然ガスハイドレート技術とその開発状況
8	12月6日	17:00-18:30	F15	副議長	藤間 銀治朗	重質油と残渣のアップグレーディング
9	12月6日	17:00-18:30	F15	フォーラムスピーカー	岡崎 肇	プロピレンのための HSFCC
10	12月8日	15:15 - 16:45	RT14	パネラー	田中 伸男	気候変動の地政学と規制
11	ポスター発表は、ポスタープラザにおいて発表されます。		F1	ポスター発表	増田 恵	LNGプラントエンジニアリングへのシミュレーションスタディの活用
12			F2	ポスター発表	井土 久雄	音響振動及び流量振動に関するフレアーシステムのための配管保全設計技術
14			F4	ポスター発表	八木 冬樹	化学物質利用による千代田CO2改質プロセス
15			F15	ポスター発表	内田 俊幸	重質原油のクリーン燃料化のためのアップグレード方策
16			F15	ポスター発表	阿尻 雅文	超臨界水における重質油の高度精製方法
17			F15	ポスター発表	岩本 隆一郎	直脱触媒のための触媒再生利用技術開発
13			F22	ポスター発表	津田 佳奈子	新しい工業水 水処理システムの開発

世界石油会議ドーハ大会 刊行物リスト

(1)印刷物

議事関連

20th WORLD PETROLEUM CONGRESS OFFICIAL PROGRAMME

(大会全般のプログラム)

Middle EAST OIL AND GAS RESOURCES MAP 2011

(2011年の中東地域の石油・ガス資源分布地図)

ABSTRACT BOOK

(セッション毎の議長、著者、発言者、概要)

Opening Ceremony-Menu

(ドーハ大会開会セレモニー晩餐会の食事メニュー)

Qatar

(カタールの紹介)

Energy Solution for All

(ドーハ大会テーマに沿って、世界の各分野著名人による投稿)

World Petroleum Council -The Value We Add

(世界石油会議の活動目的、組織、参加国リスト)

WPC explore-ISSUE NO.4

(WPC概要と大会中のツアーなど紹介)

Yuth in the Energy Future

(WPCのユース活動の目的、組織、特集記事)

Delegate List

(参加者の国別、氏名、所属機関・企業名、役職)

会場関連

EXHIBITION CATALOGUE

(ブース配置図、展示場でブースを出展した企業・団体の紹介)

次期モスクワ大会

21st World Petroleum Congress -Basic Information-Issue2 Taking the Lead

(次回開催地、ロシア、モスクワの紹介)

その他

REFLECTIONS ON ISLAMICART

(イスラム絵画、版画、彫刻など紹介)

上記刊行物(含むDVD)は、世界石油会議日本国内委員会(石油連盟内)で保存しております。

第20回世界石油会議ドーハ大会プログラム一覧

補足2

12月4日(日)	12月5日(月)	12月6日(火)
8:00 8:15 8:30 8:45 9:00 9:15 9:30 9:45 10:00 10:15 10:30 10:45 11:00 11:15 11:30 11:45 12:00 12:15 12:30 12:45 13:00 13:15 13:30 13:45 14:00 14:15 14:30 14:45 15:00 15:15 15:30 15:45 16:00 16:15 16:30 16:45 17:00 17:15 17:30 17:45 18:00 18:15 18:30 18:45 19:00 19:15 19:30 19:45 20:00 20:15 20:30 20:45 21:00	開会セッション (@Conference Hall) 大会歓迎挨拶: カタール エネルギー工業相 開会スピーチ: カタール国王 Plenary 1 全体講演 中東から考えるエネルギー問題の解決策 カタール、UAE、イラク、オマーン、バーレーン、クウェート各国石油相 休憩(11:00~11:15) BP1 基調講演 大型ガスプロセスの管理から得た教訓 議長: 阿諾夫(千代田) BP3 基調講演 大水深及び大深度地下貯留層の開発 BP5 基調講演 製油所のメンテナンスと運転の信頼性 BP7 基調講演 エネルギー源としての水素の可能性 スピーカー: 岡崎重(JX1) BP9 基調講演 石油加工産業における倫理と統治の現状 展示会場開会式 ランチ WPC優秀表彰 (@Theatre Hall) 石油産業における技術開発または社会的責任に関し顕著な功績のあった企業・研究所その他公的・私的組織に対して授与される。 MS 行政・政府セッション ベネズエラ、インド、セルビア、アンゴラ、英国 休憩(15:00~15:15) F1 フォーラム LNG生産者: 液化と出荷の最新技術 Poster: 中村守孝/増田重(千代田) F6 フォーラム ニュートロニクス探査: 技術革新と将来見込み F12 フォーラム 原料油の柔軟性: 輸送燃料需要と品質に適合する新精製技術 F16 フォーラム ライフサイクル分析を加味したハイブリッド燃料の選択 F20 フォーラム 気候変動への産業界の対応 SP1 スペシャルセッション 企業とコミュニティ: 緊密な共有のパートナー F2 フォーラム LNGの貯蔵、再ガス化及び安全管理の高度化 Poster: 井上久雄(千代田) F7 フォーラム 油層管理の進歩 F13 フォーラム 将来型の燃焼エンジン向けに調整する燃料 Presentation: 高橋剛(JPEG) F17 フォーラム 風力と太陽エネルギー: 短期と長期の見通し F21 フォーラム 操業への社会的な認可: HSEとコミュニティの関わり SP2 スペシャルセッション 上流部門における技術革新 F4 フォーラム 残置ガス田についてのソリューション Presentation: 高砂達也(三井物産) Poster: 八木冬樹(千代田) F9 フォーラム 増進回収: 新たな挑戦と技術 F14 フォーラム 石油化学工業の原料料変遷と技術 Presentation: 寺岡勝美(出光) F18 フォーラム クリーンコル技術 F23 フォーラム エネルギープロジェクト外投資に求められる社会的責任 SP6 スペシャルセッション NPO-IFPECA: 石油ガス産業の持続可能な未来に関する報告 日本国内委員会主催レセプション	Plenary2 全体講演 未来エネルギーの展望とカタールの役割 カタール エネルギー工業相、ExxonMobil会長兼CEO(米)、Diyalatah/KelcoCEO(オランダ) Plenary3 全体講演 (@Conference Hall) 世界的なエネルギー問題の解決策: 規制の確実性・環境保護・地政学的協調 休憩(10:00~10:15) MS 行政・政府セッション トルウェー、カナダ、キューバ、ナイジェリア、クウェート SP17 スペシャルセッション 持続可能な未来の構築: 実用主義とパートナーシップの推進 休憩(11:00~11:15) BP2 基調講演 ガス・インフラへの投資 BP4 基調講演 超重量油開発技術の進歩 BP6 基調講演 原油と石油製品の長距離輸送 BP8 基調講演 自動車燃料源の比較分析 スピーカー: 尾山宏次(JPEG/現JX1) BP10 基調講演 炭素捕捉と封鎖の最新状況 SP3 スペシャルセッション 透明性と不正防止 ランチ Plenary4 全体講演 将来への責任ある持続可能な投資 EUセッション 欧州におけるエネルギーに関する基調報告 休憩(15:00~15:15) F3 フォーラム GTLの効率、安全性及び経済性の改善 副議長: 野沢達至(千代田) F8 フォーラム 増進回収: 新たな挑戦と技術 F15 フォーラム 重質油と残置のアップグレード 副議長: 藤間健治郎(千代田) Presentation: 岡崎重(JX1) Posters: 杉原重/内田俊幸(千代田) 阿原篤文(東北大学) 岩本隆一郎(出光) F18 フォーラム クリーンコル技術 F23 フォーラム エネルギープロジェクト外投資に求められる社会的責任 SP6 スペシャルセッション NPO-IFPECA: 石油ガス産業の持続可能な未来に関する報告 アラビアンナイト

12月7日(水)	12月8日(木)
8:00 8:15 Plenary5 全体講演 多重セクターの協力による持続可能なエネルギー産業 SINOPEC会長(中国)、インド石油天然ガス相、OMV副社長(オーストリア)、ロシア・エネルギー相 8:30 8:45 9:00 9:15 Plenary6 全体講演 産消対話:期待と達成可能性 CNN中東主席特派員、エル・バトリOPEC事務局長、ファン・デル・ワールフェンIEA事務局長 9:30 9:45 10:00 休憩(10:00~10:15) 10:15 MS 行政・政府セッション ウルグアイ、オランダ、カタール、カザフスタン 10:30 10:45 11:00 休憩(11:00~11:15) 11:15 RT1 ラウンドテーブル 国境をまたぐパイプライン:利害関係者の調整を如何に図るか 11:30 11:45 RT4 ラウンドテーブル ピークオイル:現実か雲 気候か 12:00 12:15 RT7 ラウンドテーブル エネルギー効率と排ガス量 削減 12:30 12:45 RT9 ラウンドテーブル 非化石燃料の費用と便 益 13:00 13:15 RT11 ラウンドテーブル 石油・ガス産業の人権保 護 13:30 13:45 14:00 休憩(14:00~14:15) 14:15 SP7 スペシャルセッション WPC 100 世界のガスの 需要と供給 14:30 14:45 14:55 15:00 15:15 15:30 15:45 16:00 16:15 16:30 16:45 17:00 17:15 17:30 17:45 18:00 18:15 18:30 18:45 19:00 19:15 19:30 19:45 20:00 20:15 20:30 20:45 21:00	Plenary8 全体講演 技術革新によるエネルギー問題の解決策 フランス石油研究所会長兼CEO スタンバール会長兼CEO(フランス)、Statoil CEO(ノルウェー)、Nexen社長兼CEO(カナダ) Plenary9 全体講演 良好な統治、社会的責任と持続可能性との関係 Nexen会長(カナダ)、Petrobras CEO(ブラジル)、テラークGlobal Leadership Foundation会長(南アフリカ) 休憩(10:00~10:15) MS 行政・政府セッション アルジェリア、パナマ SP15 スペシャルセッション WPC 100 エネルギー と気候 休憩(11:00~11:15) RT2 ラウンドテーブル ガス価格の展望:投資を 呼ぶに足る高価格かつ 消費者を惹きつけるに 足る低価格 RT5 ラウンドテーブル 埋蔵量と資源との区分: 新たな規定から分かる こと RT8 ラウンドテーブル 製油所プロセス管理から 学んだ教訓 RT10 ラウンドテーブル 2050年のエネルギーミックス BP11 基調講演 多様性の促進 ランチ Plenary10 全体講演 技術・協力・革新:万人のためのエネルギー Maersk Oil CEO(デンマーク)、CNPC副社長、PetroChina社長兼副会長(中国)、GE Oil and Gas社長 兼CEO(イギリス) Plenary11 全体講演 ダウンストリーム部門の課題に対する業界の解決策 エー・ノール・ガスCEO(ドイツ)、SASOIL社チーフ・エグゼクティブ(南アフリカ) 休憩(15:00~15:15) RT3 ラウンドテーブル ONGや石油化学用など 天然ガスの活用拡大 RT6 ラウンドテーブル 資本集約的な石油開発 プロジェクトへの投融資誘 致 SP16 スペシャルセッション エネルギーの未来にお ける若者 エネルギーの未来に関 する異なるシナリオから の視点と次世代への影 響 RT13 ラウンドテーブル 変化する国営石油会社 の役割 RT14 ラウンドテーブル 気候変動の地政学と規制 Panelist:田中健男(エ ネルギー) 休憩(16:45~17:00) 17:00~ デューハースト賞受賞記念講演 WPC創設者の名を冠した賞で、石油産業で優れた科学技術的業績をあげた個人に与えられる ギルヘルム・エストラレーラ氏(Petrobras)によるデューハースト賞受賞記念講演 17:45~ 閉会式 ホスト国がカタールから第21回WPC(2014年)開催国ロシアに公式に移行

(1) 主な参加者(国内委員会関係)

- ① 渡 文明 日本国内委員会 会長
- ② 菊地英一 同 副会長
- ③ 棚橋祐治 同 副会長
- ④ 竹内敬介 同 副会長
- ⑤ 関 誠夫 同 副会長
- ⑥ 岡部敬一郎 コスモ石油 会長
- ⑦ 木村 康 JX日鉱日石エネルギー 社長
- ⑧ 古関 信 JX日鉱日石開発 社長
- ⑨ 河野博文 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 理事長
- ⑩ 久保田隆 千代田化工建設 社長
- ⑪ 関屋文雄 富士石油 社長
- ⑫ 山浦紘一 日本国内委員会 専務理事

※上記役職は、2011 年 12 月 8 日までの役職にて記載。日本国内委員会役員については、2011 年 12 月 9 日より新役員による新体制になっております。

(2) 日本からの参加者(合計 30 社・団体 179 名)

- | | |
|--------------------|-----------|
| ①石油精製 | 6 社 60 名 |
| ②石油開発 | 2 社 12 名 |
| ③電力・ガス等 | 2 社 2 名 |
| ④エンジニアリング・プラント | 5 社 51 名 |
| ⑤輸送 | 2 社 2 名 |
| ⑥建設 | 1 社 1 名 |
| ⑦商社 | 4 社 19 名 |
| ⑧非営利団体(国内委員会事務局含む) | 6 団体 29 名 |
| ⑨大学・学術界 | 1 大学 1 名 |
| ⑩その他(展示対応等) | 1 社 2 名 |

※ 上記社数、人数は(1)の主な参加者数、非会員 4 名、海外駐在等による海外からの参加者を含んだ人数を記載しております。

※ 日本国内委員会主催レセプションのみの参加者は含んでおりません。

第20回世界石油会議ドーハ大会報告にご協力頂いた皆様

補足 4

今大会のご報告に際し、下記の会員の皆様に執筆、ご協力を頂きました。

速報版報告書につきましては、年末繁忙の中でしたが、大会終了後約 3 週間の後、皆様にお届けすることが出来ました。

下記の方々以外にも、会員、関係者の多くのご協力を賜り無事、今大会の一連の行事を遂行することが出来ました。厚く御礼申し上げます。

(敬称略、順不同)

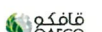
報告部門	所属機関名	氏名	備考
全体会議 (Plenary)	千代田化工建設株式会社	関 誠夫	報告者
	日揮株式会社	岩井 龍太郎	
	(独) 石油天然ガス・金属鉱物資源機構	大貫 憲二	
	JX 日鉱日石開発株式会社	那須 俊彦	
	JX 日鉱日石エネルギー株式会社	尾山 宏次	
天然ガス部門	千代田化工建設株式会社	中村 守孝	報告者
	大阪ガス株式会社	石黒 千賀子	報告者
	千代田アドバンス・ソリューションズ株式会社	井土 久雄	
	千代田化工建設株式会社	野沢 謹至	
	三井造船株式会社	高沖 達也 野上 朋範	
	JX 日鉱日石エネルギー株式会社	尾山 宏次	報告者
石油開発部門	(独) 石油天然ガス・金属鉱物資源機構	藤井 哲哉	報告者
	(独) 石油天然ガス・金属鉱物資源機構	田口 甲斐	
	(独) 石油天然ガス・金属鉱物資源機構	大貫 憲二	
	JX 日鉱日石開発株式会社	那須 俊彦	報告者
石油精製部門	千代田化工建設株式会社	藤間 銀治郎	報告者
	出光興産株式会社	武藤 秀留	報告者
	コスモ石油株式会社	塚越 正巳 桐山 和幸	

	日揮株式会社	岩井 龍太郎	報告者
	JX 日鉱日石エネルギー株式会社	安達 博治	
	出光興産株式会社	鳳城 延佳	
	(一財)石油エネルギー技術センター	高橋 剛	
	JX 日鉱日石エネルギー株式会社	尾山 宏次	
補完エネルギー部門	出光興産株式会社	山本 善弘	報告者
	出光興産株式会社	加須屋 純一	
	JX 日鉱日石開発株式会社	那須 俊彦	
持続可能性部門	千代田化工建設株式会社	津田 佳奈子	
	(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構	藤井 哲哉	
	JX 日鉱日石エネルギー株式会社	安達 博治	
	(一財)石油エネルギー技術センター	辻村 良成	報告者
	JX 日鉱日石開発株式会社	那須 俊彦	報告者
ポスターセッション (フォーラムペーパー)	千代田化工建設株式会社 同上	中村 守孝 百瀬 俊也	発表者 共同執筆者
	千代田アドバンスト・ソリューションズ株式会社	増田 恵	同上
	千代田アドバンスト・ソリューションズ株式会社	井土 久雄	発表者
	千代田化工建設株式会社	八木 冬樹	発表者
	千代田化工建設株式会社	杉 宣重	発表者
	東北大学	阿尻 雅文 猪俣、塚田 山本、渡邊 木下	発表者 共同執筆者
	出光興産株式会社	岩本 隆一郎	発表者
	千代田化工建設株式会社	津田 佳奈子	発表者

報告者：2月8日報告会で報告いただいた方々。

発表者：ドーハ大会ポスターセッションで発表した方々。

ブース訪問コース案 (2011 年 11 月 29 日現在)

ブース訪問コース案 (2011年11月29日現在)					
Host Sponsor	National Sponsors	Platinum Sponsors	Gold Sponsors	Official Partners	Silver Sponsors
 قطر للبترول Qatar Petroleum	 QAFCO QATAR AIRPORT  QAFCO QATAR AIRPORT	 Chevron ConocoPhillips  DOLPHIN ENERGY  MAERSK OIL  ExxonMobil  PETROBRAS  ORX  ROSNEFT  SASOL  TOTAL	 bp  nexen  PDVSA  Sonangol	 Al Jazeera  Bloomberg  Deloitte  QATAR SCIENCE & TECHNOLOGY PARK  QNB  THE WALL STREET JOURNAL	 ANH  LING JAZAN  mitsubishi & co. ltd.  Schlumberger

伊藤忠商事(株) 三井物産(株)
丸紅(株) エルエヌジー・ジャパン(株)





第20回世界石油会議 ドーハ大会

日本国内委員会 報告会

報告集

2012年2月

発行 世界石油会議 日本国内委員会

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2

経団連会館17階（石油連盟内）

TEL 03-5218-2302



World Petroleum Council - 20th WPC

<http://www.20wpc.com/>

Japan National Committee of WPC

<http://www.wpcjnc.jp/>